

【ねがいましては】

第73号

平成7年3月25日

共和珠算学習塾

「とにかくやってみよう」

とある学習のときでした。私は中学生たちにテストをするよ（期末テストが近づいていた）ということで、前もって予告をしました。自宅では向かわない子は全く向かわないので、チーム戦だということにし、テスト内容も答えも渡しておきました。（一週間前）

いざ本番、結果はそれなりでした。そして私は強く訴えました。何を訴えたか、個人だけのテストならいざ知らず、チーム戦です。つまり自分が情けない点数を取ってしまうと同じチームの子に迷惑がかかります。チーム仲間は助け合うもの、チームのために身を粉にして努力する。結果にこだわらずやるだけのことはやろうと真剣に挑むのが「ひと」なのだ……。そうしたら響きました。翌日、朝6時、受験生たちが来る時間帯にしっかり来て再テスト、それなりでした。ある男子生徒が「オレ、本当に寝なかったよ」……「よっしゃ！」（徹夜はあまり効果はないのですが、そのころ根に拍手）

人って少なからず意地のようなものを持っているようで、意地は時と場合によっては悪い方向へ受け取られることもあると思いますが、私はその中学生に対し、この子には芯があるぞ思いました。「ひと」としてほんの少し成長できたのかな……。

以前、映画で「父子草」という作品に出会いました。渥美 清さんが扮する日雇いの労働者と、貧乏浪人学生石立 鉄男さんとの物語なのですが、全くの他人でありながら親子のような愛情が通い合う作品です。石立さんは浪人なので勉強をたくさんしなければならぬ。でも生活費がないので日雇いの仕事で生活するが、両立しない。そこへ全くの他人である渥美さんは自分の稼ぎを「使え」と言って渡す。そして時は流れて……。渥美さんは学生と再会する。二人はなにを言うこともなく相撲をとり始める。何度となくとったあと、二人は言葉なく抱き合い涙を流す……。というような内容であったと思います。

現代は物が溢れ、経済的にも豊かになりましたが、こころの豊かさは以前にくらべてどちらへ傾いているのでしょうか。

お金では買うことのできない温かいものをこれからも求めていきたいと常々感じています。また、この「父子草」なんとかビデオにないものかと思っています。教室でぜひ上映したいものです。

◇4月の予定

6日（木） 珠算科・学習科 授業開始 検定試験合格発表

この日 3:30より新入生見学会をいたします。お友だちやご兄弟で始めようと思っている方は、どうぞ
また、新学期抽選会も行います。

*4月より公立学校が、第2・4土曜日がお休みとなります。

当教室でもお休みとなります。ただ、検定試験のある月は、第4土曜のみ行う場合があります。

*また、学習科においても年々、授業日数を増やしてきましたが、より授業の質向上をめざし、月曜日を増設する予定です。詳しくは決まり次第、お手紙でお知らせいたします。

*珠算科においては、より暗算重視型の授業へ移行する予定です。

単位変換など、算数の基礎も取り入れます。

*父母懇談会を行う予定です。